

# 「相手を思いやり親切に」(1時間扱い)

授業者 阿保裕也

## 《主題について》

**中学年2-(2) 思いやり・親切** 相手のことを思いやり、進んで親切にする。

《資料》 心と心のあく手(「わたしたちの道德小学校3・4年」文部科学省)

3年生という段階においては、相手の気持ちをより深く理解できるようになるため、温かい心とともに、相手に対する思いやりの心を育てることが一層重要になる。相手の現在の状況、困っていること、大変な思いをしていることなどを想像することによって相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行うことができるように指導していくことが大切である。

資料では、「ぼく」が重い荷物を持って大変そうなおばあさんに会い、手伝いを申し出るが断られてしまう。その後、母親からおばあさんは病気で体が不自由になったが、歩く練習をして少しずつ回復してきたことを知る。おばあさんの実情を知り、2回目は相手の気持ちを想像して見守ることを選んだ「ぼく」。声をかけた初めの「ぼく」と声を掛けずにそっと見守ることを選んだ「ぼく」の行動のどちらがより親切なのか考えながら、本当の親切とは何かを考えられるようにしたい。

## 《評価の観点》

- |    |  |            |
|----|--|------------|
| 評1 | ○ 自分自身の在り方を振り返ったり、登場人物の言動について話し合ったりすることを通じて、自分の道徳的な見方、考え方、感じ方を広げ、よりよい生き方について考えようとしている。 | [よりよく生きる]  |
| 評2 | ○ 資料中の登場人物の思いを受け止め、自分の思いや考えを素直に表し、友達と交流しながら、自分の考えをより豊かなものにしていこうとする。                    | [豊かなかわり]   |
| 評3 | ○ 相手を思いやり、相手の立場をよく考えて親切にすることの大切さに気付き、それを基にしてこれからの自分の行為について考えようとしている。                   | [道徳的価値の自覚] |

## 《本題材におけるアクティブ・ラーニングで育てていく資質・能力》

### 自主的・主体的な課題解決

- ・ 事象に思いや願い、興味・関心をもつ
- ・ 自分の学習を振り返り、次の学習に生かす

### 本題材における活動の姿

これまでの生活経験をもとに、資料を読むことを通して、どちらがより親切なのか選択し、理由を考えようとしている。

学習を通して道徳的価値を自覚し、自らの生活を振り返り、これからの生活に生かそうとしている。

### 協同的な課題解決

- ・ 協同する
- ・ 協同することの価値に気付く

### 本題材における活動の姿

自分と友達の考え方を比較しながら、友達に質問したり、気付いたことを伝えようとしていたりしている。

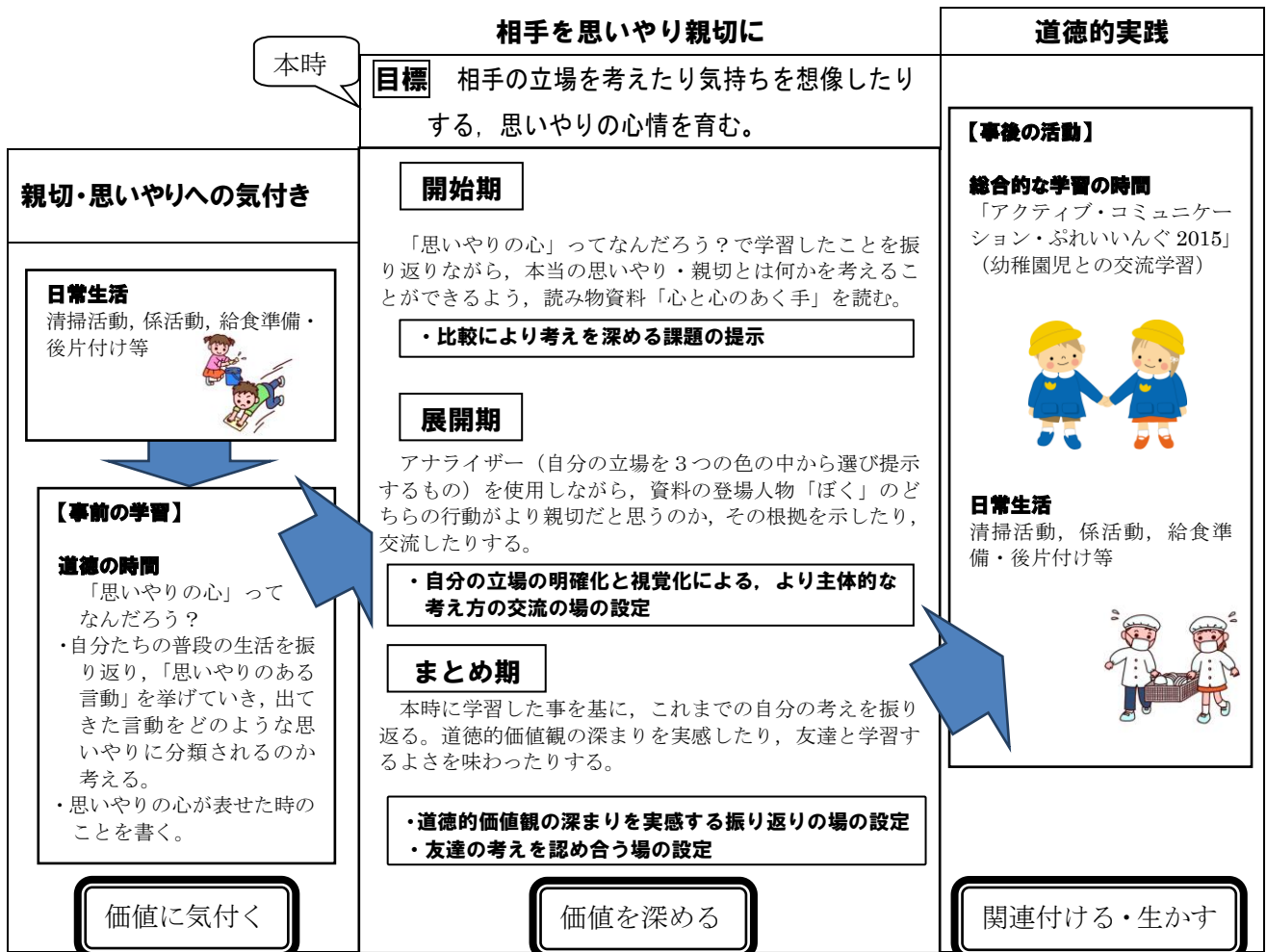
友達のよかった考え方を聞いて、互いに認め合おうとしている。

《研究との関わり》

自主的・主体的な課題解決や協同的な課題解決を進めることができるよう、課題設定（道徳における主発問）の在り方や振り返りの在り方の支援を表すと、以下ようになる。

	自主的・主体的な課題解決のために	協同的な課題解決のために
課題設定の在り方	<p><b>比較により考えを深める主発問</b></p> <p>主発問において、どちらの行動がより親切だと思えるのか比較する形式をとる。その根拠を考える必然性が生まれるよう、アナライザー（3色のコーン状のもの）を使用する活動を取り入れる。自分の立場を明確にすることで、友達の考えを聞いたり、自分の考えと比較したりしながら、道徳的な見方、考え方を広げていくと考える。</p>	
振り返りの在り方	<p><b>道徳的価値観の深まりを実感する振り返りの場の設定</b></p> <p>学習したことを基に、これまでの自分の考え方を振り返る場を設定する。自分の道徳的価値観の深まりを実感することで、学んだことをこれからの生活に生かしていくと考える。</p>	<p><b>友達の考えを認め合う場の設定</b></p> <p>自己有用感を高め、協同的に学ぶよさを体験することができるよう、友達の考えを認め合う場を設定する。友達の考えのよさや、それを取り入れた自分の考えを交流することで、道徳的な見方や考え方を広げつつ、友達と学習するよさや喜びを味わうと考える。</p>

《学習のグランドデザイン》



【 本時案 】

本時のねらい

相手の立場を考えたり気持ちを想像したりする、思いやりの心情を育む。

学習活動 (○) と子供の姿

教師の支援 (☆) と評価 (◇)

- 以前に道徳の時間で学習した「思いやりの心」を分類し、まとめた学習の板書を提示し、本時のめあてについて知る。

本当の親切とは何か考えよう。

- 読み物資料「心と心のあく手」を読む。

☆ 日常生活と内容項目との関連が図れるよう、内容項目にかかわる以前の学習の板書や写真などを教室内に掲示しておく。

- 登場人物「ぼく」の行動について、自分の立場を選び、なぜそう思うのか理由を表す。

④最初に声をかけた「ぼく」とそっと見守った「ぼく」はどちらが本当の親切だと思いますか。

荷物を持つようにしているから、最初の「ぼく」だと思う。

どっちも、親切なんじゃないかな。どっちもおばあさんのことを心配しているし。

おばあさんのことを考えると、見守った方がよかったんじゃないかな。だから、見守った「ぼく」だよ。

- 意見を聞きたい友達のところへ行き、考えを聞き合う。(必要感に応じた自由交流→全体で交流する)

声をかけて、助けてあげようとするのは、親切なことだと思うよ。

見守った「ぼく」は、歩く練習をしたいおばあさんのことをよく考えていると思うよ。

- 本当の親切について全体で話し合う。

本当の親切とは何だと思いますか。

相手のことをよく考えてあげることじゃないかな。

自分が相手のためにできることをやってあげることが親切だと思う。

- 本当の親切ができたと思ったことはあるかを考える。また、これからの自分について考え、交流する。

これまでに本当の親切ができたと思ったことはありますか。

本当の親切はできていなかったかもしれないな。

もしかしたら、あの時に友達にしてあげたことって親切ではなかったかも…。

もっと相手のことをよく考えるようにしたいなあ。

時には、そっと見守ったり、心の中で応援したりする方がいい時もあるかもね。

- 今日の学習の中で、共感・納得できた友達の考えを発表する。

今日の学習で、「いいな」「なるほど」と思ったお友達の考えはありますか。

○○さんの意見を聞いて、相手のことをしっかり考えて相手のために行動することが大事だと思った。

◇ 登場人物の行動を通して、進んで自分の道徳的な見方、考え方、感じ方を広げようとしている。 **【評1】**

☆ 自分の立場を明確にするとともに、友達の立場も知ることができるよう、アナライザーを使用する場面を設定する。また、アナライザーの色は、随時変更してもよいことを伝える。

☆ 親切に対しての考えを深め、相手の立場や気持ちについて考えられるよう、「ぼく」の二つの親切の比較を促す発問を行う。

**【比較により考えを深める主発問】**

◇ 話し合い活動を通して、自分の思いや感じ方を交流しながら自分の価値判断をより豊かにしようとする。 **【評2】**

☆ 必要感をもって、友達との考えを聞き合い、自分の価値判断をより豊かにできるように、自由交流の場を設定する。

☆ 相手の立場に立って考えたり、気持ちを想像したりする事の大切さに気付くことができるよう、二つの親切の違いに着目できるような補助発問や構造的な板書を心掛ける。

◇ 相手を思いやり、相手の立場をよく考えて親切にすることの大切さに気付く、それを基にしてこれからの自分の行為について考えようとしている。 **【評3】**

☆ 自分の道徳的価値観の深まりを実感することができるよう、これまでの自分の考え方を振り返る場を設定する。

**【道徳的価値観の深まりを実感する振り返りの場の設定】**

☆ 自己有用感を高め、協同的に学ぶよさを体験できるように、友達の考えを認め合う場を設定する。

**【友達の考えを認め合う場の設定】**